

人事担当×LGBT当事者



セミナーで話すLGBT当事者ら

千代田で企業セミナー

「働きやすい職場環境を」

企業の人事担当者らを対象に、LGBTなど性的少数者も働きやすい職場環境づくりをめざすセミナーが千代田区で5日にあった。製造業やクレジットカード会社、消防局など幅広い業種の17社22人が参加し、企業で働くLGBT当事者らの話を聞いた。

社員研修などを手がける会社の主催。第1部で「LGBT当事者がより働き続けたい組織づくりは企業の組織力・ブランド力向上にもつながる」として企業の対応状況などを解説。第2部はLGBTの会社員3人が就職活動や職場での実感を語った。

「就職のエントリーシートでの性別欄に男女しかない」と、企業説明会にも行きにくい」とトランスジェンダーの宮田悠さん。

レスビアンレズビアンの永竹未奈さんは前の職場でパートナーを男性と決めつけられ、困惑したという。ゲイゲイの中津圭博中津圭博さんはかつての職場でばれないよう会話に気を使い「仕事に集中できなかった」と話す。「同僚1人にカミングアウトし、働きやすくなった。誰に話をきいてもらえるか、(職場で)見ると随分違う」と力を込めた。

「性的嗜好で採用をよめる理由はない。能力や適性で採否を決める」と、参加したPR会社の人事担当者(35)。来春、トランスジェンダーの学生1人を採用する予定だ。出生時の性は女性だが現在は男性として暮らしていることを、面接の際に自ら担当者に告げたという。「売り手市場の今、優秀な人材の確保は重要なだし、育てた社員にやめられるのも痛手。誰もが気持ちよく働ける職場づくりが今後の企業の成長力になる」(西本ゆか)